

鈴かけの館

崎村 裕

山道を下つてくると、いきなり、眼の前に煉瓦作り二階建ての立派な建物が現れた。煉瓦の色がまだ新しいところからすると、築後、そう時間が経っていないようだ。私は車を止めてしばらく建物を眺めた。玄関と思しきところには「鈴かけの館」と黒々と書かれた白木の看板がかかっていた。玄関の前はロータリーになっていて、真ん中に大きなプラタナスの木が聳え、下には大人の手のひらの倍くらいの葉っぱが落ちていた。そのとき、鈴かけはプラタナスの和名ということに気が付いた。と同時に本家の倉吉翔一のことを思い出した。中学校の同期会のと時の話では、彼は認知症になり、ここに入所しているとのことだった。

倉吉翔一は小学校六年生、私も同じで、倉吉憲治だった。彼は何でも私より優れていた。絵はうまいし、歌も一度聞けば、オルガンですらすら弾くことが出来た。野球が流行り出した頃で、近隣の小学校対抗戦が始まっていた。彼はピッチャーで、かなり速い球を投げることが出来たし、カ

じ四キロほど離れた准進学校に進んだ。高校一年の時は何と同じクラスになっていた。私は、彼を避けできるだけ近寄らないようにしていた。彼は野球はやめ、弦楽部に入っていた。彼は新しい自転車で颯爽と通っていたが、母子家庭で、自転車もない私はとぼとぼ歩いて通うしかなかった。しかし、二年生になったとき、母は何処からか中古の自転車を手にいれてきた。それは、チェーンがよく外れるくせがあつたが、私は気を付けて乗っていた。

あるとき、翔一がやってきて、自転車をさせる、といった。「ぼろだから」と私は断つたが、彼は「おまえの母ちゃんが苦労して買ったものだ。そんなことを言うもんじゃない」といった。ところが彼が乗ると途端にチェーンが外れた。そして、チェーンは元に戻らなかつた。自転車屋に持っていくと、余計な力がかかったので、ロッドが曲がってしまったのだ、部品を交換するしかない、ということだった。費用は相当なものだった。私は再び歩いて通うことになった。翔一のことは母には黙っていた。母と本家の旦那との微妙な関係に気づいていたからだ。その後、本家筋から修理代は持つという話があつたが断つた。

二年、三年と翔一とは別なクラスだった。三年になると翔一は頭角を現した。模擬試験の成績は大体五番以内、有名国立大学の法学部に入り、国家公務員上級職試験に合格し、通産省に入省した。

ーブもマスターしつつあつた。それで、休日にしばしば私を伴い小学校の校庭に出かけ、プラタナスの下で、私を臨時のキャチャーにして、投球練習をした。一球速い球が来た。次は真ん中にきた球が大きく右に曲がった。カーブだ、左のミットは届かないので、思わず右手をだした。瞬間激痛が走った。ボールは人差し指に当たったのだ。すぐに近くにいた大人の人が、自転車の荷台に乗せて骨接ぎ医者に連れていった。医者は一目見て、骨折ではなく突き指だといった。レントゲンはなく、医者はただ引張った。しかし、痛いだけで第一関節が動かなくなった指は元に戻らなかった。それから薬を塗って、包帯をぐるぐる巻きにした。三日おきにその整骨院に通つたが、薬を塗って包帯を変えただけだった。そのうちに痛みもとれ、多少は不自由だが、箸も鉛筆も持てるようになったので、医者通いを止めた。

整形外科医院を訪れたのは、十年以上後の就職した年だった。医師はレントゲン写真を見て、怪我をした直後か、骨が発達する以前なら何とかなつたかもしれないが、今となつては手術は不可能だといった。

翔一とは中学までは別なクラスだったので分からなかつたのだが、勉強も出来たらしい。中学三年のとき高校受験のための模擬試験が数回行われ、成績優秀者の名前が掲示された。彼は常に三番以内に入っていた。それで、県庁所在地の県下一の進学校に行くのかと思つていたが、私と同

私は県内の国立大学を出て、高校の教員になった。以後彼と会うことはなかつたのだが、定年前、私は母校に転勤になつていった。創立何十周年だかの記念行事のとき、記念講演に翔一を呼ぶことになった。元通産省何とか局長の肩書だった。そして、高校の同級生ということで、私が接待係になつた。校長室で、校長も交えて二、三言葉をかわしただけだったが、彼は恰幅もよく堂々として、鷹揚だった。講演内容は、原子力発電推進についてだった。当時は放射能の問題は起つていなかった。

帰り際、彼は私に近づいて、「おまえの学費の一部はうちのおやじが負担したんだ」といった。

久し振りに顔を出していこうかと思つたが、お見舞いの品も用意してないし、認知症で相手の識別も出来ないかもしれない。仮に出来たとしても、みじめな気持ちにさせるだけかもしれない。私は車を降りて歩くことにした。建物は奥に長く、プラタナスすなわち鈴かけの並木が続いていた。

風が吹き、葉が何枚か、宙に舞った。私は大きな葉を何枚か集めた。何の目的もない。家に帰れば庭に穴を掘って埋めるだけだろう。私はビニールの袋に葉を入れて、車に戻つてエンジンをかけた。